

令和6年1月

今年もよろしくお祈りします。3学期は振り返りの期間です。3年次生は中央ライフを振り返り、新生活の準備を始めましょう。2年次生は「高3の0学期」の始まりです。この期間に第一志望(校)は決めておきましょう。受験勉強にフライングはありません。1年次生は4月から「自分だけの時間割」が始まります。今は1年次の基礎固めをしっかりと!!

○ 全校の受験生たちよ、団結せよ

受験生は最終目標に向けて一人きりの戦いが続いていると思います。今が一番きつい時期であり、一番成長している時期です。心技体を充実させてのりきってください。

○ より良い振り返り（リフレクション）

振り返り（リフレクション）は反省や感想とは異なり、次の行動につなげる大切な取組です。自分には何ができて、何ができなかったのかを客観的に振り返ることです。ただ、モチベーションを高める振り返りとそうでないものがあります。

マラソンを例にとると、残りの距離が分からないと誰でも次第に心が折れるように、モチベーションを維持するためには残りの距離が分かることが重要です。そのとき人は二つの考え方をします。一つは、「もう30キロ走った」。これを「これまで思考」といいます。もう一つは、「まだ12キロ残っている」。これは「これから思考」です。

ある研究によると、「これまで思考」は達成感を得やすいと同時に気が緩んでしまう傾向があり、他のことが気になりだして、道半ばで意気込みを失ってしまいがちなのだそうです。

他方、「これから思考」つまり「完成までにあとどれくらいかかるか」にフォーカスすると、達成の確率が高まるそうです。脳は、現在の状態と達成した状態との不一致を検出すると、行動が必要だというシグナルが出て、あらゆる能力をつぎ込むように反応するからです。最後までモチベーションを維持し、目標への集中をそらさず、最終的な取組を完遂するための考え方としては、「これから思考」がより良いということです。むろん途中での激励は必要ですが、最大限の誉め言葉は目標達成まで取っておきましょう。

○ 読書の冬、私もビブリオバトルに参加します

本を読むことで視野が広がる。自分の無知に気付くとともに、自分の視点や思考の幅が広がる。そう実感した本がジョージ・オーウェルの寓話『動物農場』です。横暴な農場主（人間）を力を合わせて追い出した動物たちは理想的な共和国建設をめざします。しかし、いつの間にか知らないうちに、ずるがしこいブタがその手下たち（凶暴なイヌ、口の上のブタ、ケタタマシク鳴くヒツジなど）を使って農場を支配しはじめ、いつの間にか不公平が始まり、ブタが富を独占していきます。その様子が恐ろしいほど見事に描かれています。みんなで作った約束事も出来事もいつの間にか改ざんされ、なにかおかしいなと思っているうちに正当化されていきます。反対の声をあげた者は、身に覚えのない罪を白状させられ、凶暴なイヌ

によって処刑されます。恐怖政治により自由にもものが言えなくなります。美しいスローガンのもとに身を粉にして死ぬまで働かされます。その尊い犠牲の上に、特権階級となったブタはビールを飲み、ぜいたくを覚え、しまいには服を着て、二本足で歩きだすのです。

「なにかおかしいな」と思いながらもそのままにしていた動物たち。歴史を忘れ、口の上手い者に簡単に言いくるめられてしまう動物たち。自分たちの正当な権利を守れず、権力者のウソを黙認してしまう動物たち。頭の弱い動物たちをいのように操り、特権階級となっていくずるがしこいブタ。

この寓話は、第二次世界大戦前の1930年代に書かれました。当時の世界情勢と照らし合わせて読むと、決して寓話と片づけることはできないリアルさがあります。読了後、なんとも言えず悶々とし、怒りが込み上げてきたことを告白しておきます。

この本が面白いと思った人は、同じ作者の『1984年』もひも解いていただきたい。伝説のディストピア小説です。人間はどうしても自分の置かれた環境に規定され、狭い視点しかもちえません。それが本を読むことで、思いもよらない視点を得ることができます。『動物農場』も『1984年』もそのような本です。ぜひ読んでみてください。(拍手)

<日本人の人権意識>

日本には人権の思想はありませんでした。キリスト教国ではなかったからです。明治になって外来語の Human Rights を「人権」と翻訳したことから始まり、本格的には戦後の日本国憲法により広まりました。日本人にとっては義理・人情や、誠や忠誠心、謙虚さなどが伝統的に大事な価値観であり、「人権が大切です」と言われても少し分かりにくいのもかもしれません。人権教育でも「おもいやりやさしさをもちましょう」と言う方が、教える側も教わる側も分かりやすいのです。『論語』にある「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」が大事だ、と言ったほうが日本人には腑に落ちるのです。

あるとき孔子の弟子の子貢が、孔子に「人として生きていく上で、一番大切なことを一つの言葉で言うとしたら何でしょうか」と聞きました。孔子は「それは恕だ」と答えました。恕の意味はおもいやりの心です。孔子は続けて、「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」と言いました。

大事なことは、人権教育と言いながら「権利抜き」の教育になっていないかということです。みなさんがいじめやハラスメントなどを受けたとき、「かわいそうですね」といわられて終わりにされたらどうでしょう。どんな具体的な人権が侵害されたのかを明確に知っておかないと、結局、それが正当化されてしまうことになりかねませんよね。

○ 校庭紹介 (1月)



日本庭園の石灯籠(いしどうろう)に同窓会寄贈
昭和五十三年と刻印されていました。



中庭のケヤキも落葉しました。冬枯れの校庭もい感じます。